



Title	コレラ菌の產生するエルトール溶血毒のレセプターに関する研究
Author(s)	張, 東炎
Citation	大阪大学, 1999, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/41349
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏 名	張 東 炎
博士の専攻分野の名称	博士(薬学)
学 位 記 番 号	第 14570 号
学 位 授 与 年 月 日	平成11年3月25日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第4条第1項該当 薬学研究科環境生物薬学専攻
学 位 論 文 名	コレラ菌の產生するエルトール溶血毒のレセプターに関する研究
論 文 審 査 委 員	(主査) 教授 本田 武司
	(副査) 教授 前田 正知 教授 田中 慶一 教授 那須 正夫

論文内容の要旨

エルトール溶血毒 (El Tor Hemolysin: ETH) は、*Vibrio cholerae* O1 や *Vibrio cholerae* non-O1 によって產生される細胞膜 pore 形成性毒素 (pore-forming toxin) である。この毒素は標的細胞膜と結合し、毒素の oligomer 形成がおこり、標的細胞膜上に pore を形成する。これに続いて、膠質浸透圧により細胞内圧が上昇し、最終的には物理的に細胞膜を破壊 (つまり溶血) すると考えられている。しかし、この破壊過程については、まだ全てが解明されているわけではない。本研究は、ETH の溶血機序の第一段階に絡むと思われる溶血毒に対する赤血球膜上のレセプターを中心として解析した。

私は、ETH の細胞膜 (特に赤血球膜) 上のレセプターの同定を目的としてまずヒト赤血球膜に対する 8 種の単クローン抗体を作製した。この得られたモノクローナル抗体のうち 1 つ ($M_{Ab}-B1$) が ETH の溶血活性を抑制したので、これを用いて ETH の赤血球膜レセプターについて解析を行った。結論として、ETH に対するヒト赤血球膜上のレセプターを glycophorin B と同定した。

まず、ヒト赤血球膜をマウスに免疫することにより、抗赤血球膜モノクローナル抗体を得、これらの内 ETH の溶血を阻害するものをスクリーニングした。得られた IgG1 単クローン抗体のうち $M_{Ab}-B1$ は ETH の溶血活性を濃度依存的に阻害した。赤血球を $M_{Ab}-B1$ で前処理後 ETH を作用させ Western blot を行った結果、赤血球膜上には ETH の Monomer と溶血をおこすのに必要な ETH の oligomer の形成が共に検出されなかった。さらに、Immunocytochemistry による解析の結果も PBS で処理した対照赤血球上には ETH が確認されたが $M_{Ab}-B1$ 抗体で前処理した血球上では ETH は見られず、 $M_{Ab}-B1$ は ETH と赤血球膜との結合をブロックすることが明らかになった。したがって、 $M_{Ab}-B1$ が認識するヒト赤血球膜上の分子は ETH に対するレセプター、またはレセプターに関連する分子と考えられた。

そこで $M_{Ab}-B1$ が認識する分子の解析を行った。まず、この B1 抗体が認識する赤血球膜上の分子を調べるために、正常ヒト赤血球膜を用いて Western blotting で解析したところ $M_{Ab}-B1$ はヒト赤血球膜上の 46kDa 及び 25kDa の 2 分子を認識した。さらに、 α -chymotrypsin, pronase, proteinase K, periodate (pH4.5), periodate (pH5.5) 処理により 46kDa 及び 25kDa 分子への $M_{Ab}-B1$ の結合は消失した。しかし、trypsin 処理した赤血球膜には未処理赤血球膜と同じ 46kDa と 25kDa の 2 本の Band が見られた。これらの性状 (その分子量や化学処理での結果) は、 $M_{Ab}-B1$ が認識する分子は glycophorin B (ヒト赤血球膜上に存在するシアル酸含有糖蛋白質) であると推定でき

た。

そこで、 $M_{Ab}-B1$ が認識する分子を特定するため glycophorin A 欠損赤血球 (En (a-) 型) および glycophorin B 欠損赤血球 (S-s-U-) を用い、Flow cytometer (FCM) および Western blotting で解析した。FCM で分析すると、S-s-U- 赤血球上には $M_{Ab}-B1$ 抗体の結合は検出されず、En (a-) 赤血球上には正常赤血球と同様に血球表面に結合する $M_{Ab}-B1$ 抗体が検出された。Western blotting で解析した結果、 $M_{Ab}-B1$ は glycophorin A 欠損赤血球 En (a-) では正常赤血球と同じく 46kDa 及び 25kDa の 2 つの分子を認識したが、glycophorin B 欠損赤血球 S-s-U- では 46kDa 及び 25kDa の分子を認めなかった。これらの結果から、 $M_{Ab}-B1$ モノクローナル抗体はヒト赤血球膜上の glycophorin B を認識する事が明らかになった。したがって、glycophorin B は ETH に対する赤血球膜上のレセプター (或いはレセプターに関与する分子) と考えられた。

また、ETH 感受性は、En (a-) 赤血球では正常赤血球と同じ程度であったが、S-s-U- 赤血球では 10 分の 1 程度に感受性が低下していた。

以上の結果より、モノクローナル抗体 $M_{Ab}-B1$ が認識するヒト赤血球膜上の glycophorin B は、ETH に対するヒト赤血球膜上のレセプターであると考えられた。さらに、完全に同じ細胞外ドメイン (N 末端から 26 残基) を有する glycophorin A と glycophorin B の分子構造を比較して考えると、glycophorin B の 27-43 番アミノ酸 (細胞膜外) 領域が ETH の結合に重要であると考えられた。

論文審査の結果の要旨

Vibrio cholerae (コレラ菌) の病原因子としてコレラ毒素が有名であるが、エルトール溶血毒 (ETH) も病原因子の 1 つと考えられている。しかし、これまでの多くの研究にも関わらず ETH の活性発現の生化学的機序についてはほとんど明らかでない。そこで、本研究では、溶血作用の第 1 段階として重要な ETH に対するヒト赤血球膜上のレセプター分子を同定することを試みた。

その結果、まず①ETH による溶血に対して強い阻害活性を持つ、赤血球膜に対するモノクローナル抗体を作るクローン (B1) を樹立することに成功した。②この B1 抗体による溶血阻害は、ETH の赤血球膜との結合阻害による事を明らかにした。また③この B1 抗体が、ヒト赤血球膜上の Glycophorin B を認識する事を明らかにした。さらに④ Glycophorin B 欠損赤血球は、正常赤血球と比べ ETH に対する感受性が低下 (約 1/10) していた。これらの結果から、ETH に対するヒト赤血球膜上のレセプターは、Glycophorin B であると結論した。

これらの知見は、コレラ菌の病原性を理解する上で極めて重要なものであり、博士 (薬学) の学位論文として価値あるものと認められる。